



平成23・24年度

東北大学大学院教育学研究科 教育ネットワークセンター

震災子ども支援室 “S-チル”

年次報告書



東北大学大学院教育学研究科 教育ネットワークセンター  
震災子ども支援室 “S-チル”

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1  
TEL&FAX : 022-795-3263  
E-MAIL : s.children@sed.tohoku.ac.jp



## 平成23・24年度 年次報告書

### 平成23年度「震災子ども支援室」活動報告

■ 概要・スタッフ	01
■ 活動内容	
1. 震災子ども支援室主催による会議、シンポジウム、研修会など	02
2. 研修講師の派遣	03
3. 関連自治体・団体への訪問	03
4. 報道関係	04
5. 広報・出版物・報告書	04

### 平成24年度「震災子ども支援室」活動報告

■ 概要・スタッフ	05
■ 活動内容	
1. 相談実績	06
2. 里親サロン	07
3. 震災子ども支援室主催による会議、シンポジウム、研修会など	08
4. 研修講師の派遣	11
5. 会議、情報交換会出席	12
6. 関連自治体・団体への訪問	12
7. 講演会、研修会等出席	13
8. 支援室来室対応	14
9. 報道関係	14
10. 広報・出版物・報告書	15
11. その他の活動	15

## 平成23年度 「震災子ども支援室」活動報告

### ■ 概要

平成23年3月11日の東日本大震災により両親を亡くした子どもたち(いわゆる震災孤児)は240人、両親のいずれかを亡くした子どもたち(震災遺児)は1338人を数えます。(平成24年1月17日、毎日新聞)。当初は、震災に伴う津波被害の大きさから相当数の震災孤児が出るのが懸念され、県内の受け入れ体制整備とともに、全国の施設や里親の受け入れ要請を進めていましたが、結果的にはほとんどの子どもたちが親族引取となりました。

こうした状況下、「震災で親を亡くされた子どもの支援に役立ててほしい」という10年間にわたる多額の個人寄附金の申し出が教育学研究科に寄せられました。研究科はこれを原資として、教育ネットワークセンター内に「震災子ども支援室(通称S-チル)」を立ち上げ、寄附者の意向を受けて震災孤児・遺児に対する長期的支援に踏み出すこととしました。「S-チル」には、「3月の震災後の相談のSから始まり、子ども達(チルドレン=チル)の健やかな成長と幸せを支えることを目指すS」の意味を込めています。

平成23年9月の開室から4ヶ月間は、相談員(心理士)が週1日出勤体制であったため、実務を開始することは困難でした。そこでまず我々は、被災3県の沿岸部に位置する自治体と管轄の児童相談所を訪問して情報収集を行なうことに力を注ぎました。その傍ら、11月には開室式、記念シンポジウム、里親対象の研修会やワークショップ等を実施し、行政や関連団体と情報を共有するとともに、今後の課題を議論しました。

相談員が常駐体制となった平成24年1月からは、支援室の本格始動へ向けた準備を進めていました。まず、携帯電話でも無料で利用できるフリーダイヤルを設置し、沿岸遠隔地に負担のないアクセスを可能としました。支援室周知のためのポスター、チラシ、カードは、現在作成中であり、近く自治体窓口や学校、関連機関を通じて配布しました。なお、これらの広報物には、東松島市の小学生が支援室のために描いてくれたブドウの絵をマスコットとして使用しています。また、広域にわたる地域支援の性格上、心理臨床や発達臨床だけでなく地域保健活動のノウハウや地域関連機関との連携が必須とされることから、保健師・看護師資格をもつ相談員の増員を行いました。発災後1年にあたる3月には、この間被災地で日常的に子ども支援にあたってきた教員、スクールカウンセラー、児童青年精神科医の方々のご報告を中心としてシンポジウムを開催しました。

次年度は、自治体や関連団体との連携をさらに進める一方、電話相談、訪問相談の体制づくり、ホームページの充実とともに、引き続き、ニーズに応じた研修、支援者支援に応じていく所存です。また、最新の動きをとらえつつ、コンパクトで実働的な組織づくりと、柔軟で身の丈に合わせた活動を目指したいと考えています。

### ■ スタッフ

室長：加藤 道代 (教育学研究科人間発達臨床科学講座 教授 臨床心理士)

相談員：平井 美弥 (臨床発達心理士)

相談員：押野 晶子 (看護師・保健師)

相談員：久保 玲子 (産業カウンセラー・在岩手)



# 1. 震災子ども支援室主催による会議、シンポジウム、研修会など

## 1 震災子ども支援室 開室式

(平成23年11月12日(土)、東北大学文科系総合棟11階大会議室)

## 2 震災子ども支援室開室記念シンポジウム 「親を亡くした子どもに対する支援の中長期的展望」

(平成23年11月12日(土)、東北大学文科系総合棟11階大会議室:参加者80名)

震災子ども支援室の開室にあたり、関連機関の方々との情報交換を行い、ご意見を頂きながら、現状と今後の課題について議論しました。

### シンポジスト

- ① 宮城県の現状とこれまでの取り組み 小林一裕 / 宮城県保健福祉部子育て支援課長
- ② 東北事務所の半年の報告 林田吉司 / あしなが育英会東北事務所長
- ③ 社会的養護と養育者支援～親族里親を中心に～ ト蔵康行 / 宮城県里親連合会長
- ④ 震災子ども支援室の取り組み 本郷一夫 / 東北大学大学院教育学研究科教授



## 3 研修会 「東日本大震災後のケアのあり方」

(平成23年11月19日(土)、東北大学文科系総合棟11階大会議室、宮城県里親連合会共催:参加者30名)

震災で親を失った子どもたちを引き取るようになった親族の養育者に対し、里親連合会がチューター的な役割を果たすことが期待されています。そうした状況を踏まえ、養育里親の方々から、震災後の子どもに起こりうる変化とその対応についての研修を望む声があがりました。そこでこうした要請に応じて研修会を実施しました。

講師: 東北大学大学院教育学研究科教授 本郷 一夫



## 4 シンポジウム 「東日本震災後の子ども支援」

(平成24年3月3日(土)、東北大学文科系総合棟11階大会議室:参加者数57名)

東日本大震災から1年間、被災地現場で日常的に子ども支援を行ってきた、教師、スクールカウンセラー、児童青年精神科医の3名を迎えて、震災後の子どもたちを振り返り、周囲の大人に求められる今後の対応について議論しました。

- 報告1 教育の現場からみえる中学生の姿(震災直後から現在までの子どもたちの様子から) 鹿野宏美氏 / 石巻市立万石浦中学校教諭
- 報告2 福島で今、何が起きているか～心のケアの今後を考える～(放射能被害を受けている福島の子どもの声や保護者の声から) 須藤弘美氏 / 福島県スクールカウンセラー
- 講演 震災と子どものこころ(宮古子どものこころケアセンターでのとりくみから) 八木淳子氏 / 盛岡少年刑務所医務課医師(児童精神科医師)



# 2. 研修講師の派遣

## 1 岩手県里親連合会、宮城県里親連合会交流会

震災孤児やその養育者(里親)との交流事業に係る事前研修会(平成24年1月29日、仙台:講師・加藤道代)

## 2 気仙沼市公立保育所保育士研修会

(平成24年2月24日、気仙沼:講師・本郷一夫)

# 3. 関連自治体・団体への訪問

日時	行先
平成23年 9/10	子どもの夢ネットワーク研修会
9/14	子どもの村福岡
9/18	仙台グリーンケア研究会講座
9/28	あしなが育英会
10/5	宮城県保健福祉部子育て支援
10/11	宮城県子ども総合センター 仙台市児童相談所 宮城県中央児童相談所
10/13	岩手県保健福祉部児童家庭課 岩手県福祉総合相談センター
10/19	宮城県東部児童相談所 石巻市福祉部子育て支援課 石巻市福祉部市民相談センター 東松島市保健福祉部福祉課
10/24	山元町保健福祉課 亘理町保健福祉課 亘理町保健福祉課子ども家庭班 岩沼市長 岩沼市健康福祉部子ども福祉課 名取市社会福祉課
10/31	北部児童相談所
11/2	仙台市子供未来局子供育成部総務課 仙台市子供未来局子供育成部子育て支援課
11/9	宮城県東部児童相談所気仙沼支所 気仙沼社会福祉事務所児童福祉担当 児童養護施設旭が丘学園 ボランティアコーディネーター「菅原フォーユー」 気仙沼保健福祉課 仙台青葉学院短期大学 グリーンケア研究会 「とととと」 個別教室・家庭教師のアップル 財団法人学習能力開発財団「Lead」
11/16	地方仙台家庭裁判所震災対応総合窓口
11/30	女川町健康福祉課

日時	行先
11/30	女川町教育長 南三陸保健福祉課 塩釜市健康福祉課子育て支援課 多賀城市保健福祉部子ども福祉課
12/7	一ノ関児童相談所 陸前高田市民生部社会福祉課 大船渡市生活福祉部保健福祉課 社会福祉法人 大洋会 釜石市保健福祉部子ども課
12/14	福島県保健福祉部児童家庭課 福島県中央児童相談所
12/15	宮古市保健福祉課子育て支援室 宮古児童相談所 豊島医院 山口クリニック 山田町役場健康福祉課福祉チーム児童福祉係 大槌町役場民生部
平成24年 1/24	あしなが育英会 陸前高田交流会
1/29	岩手県里親会、宮城県里親会交流会
2/6	宮城県子育て支援課
2/10	法政大学(震災子ども支援室に来室訪問)
2/14	仙台いのちの電話
2/16	宮城県教育庁 仙台市教育局学校教育部教育相談課 教育企画部総務課 みやぎ心のケアセンター企画課
3/19	南三陸町訪問(保健福祉課) 南三陸ホテル観光託児所マリソール
3/23	仙台市各家庭健康課 みやぎ心のケアセンター 宮城県子ども総合センター 宮城県中央児童相談所 宮城県保健福祉部子ども家庭課 仙台市子供未来局子供育成部子育て支援課

## 4. 報道関係

平成23年 10/21	“震災子ども支援室開設” 読売新聞	11/20	“震災遺児どう見守るか” 河北新報社
11/1	“震災遺児見守り息長く” 河北新報社	11/27	“遺児の話 耳傾けて” 河北新報社
11/12	“震災子ども支援室設置” 河北新報社	12/8	“ニュースアンサー” テレビ東京
11/13	NHK	平成24年 3/10	“避難児の心癒そう” 北海道新聞

## 5. 広報・出版物・報告書

- 1 「震災子ども支援室」ホームページ作成
- 2 電話相談用フリーダイヤルの設置
- 3 マスコットキャラクター選定  
(2011年当時 東松島市矢本西小学校6年佐藤美紀さん作)
- 4 「震災子ども支援室」広報ポスター、チラシ、カードの作成、自治体と関連団体、学校に送付
- 5 研修会資料の電子ジャーナル化  
(東北大学中央図書館)
- 6 開室記念シンポジウム報告書  
「親を亡くした子どもに対する支援の中長期的展望」作成と配布
- 7 シンポジウム  
「東日本震災後の子ども支援～震災から1年を振り返って～」  
(平成24年3月3日) 報告書作成と配布
- 8 文教速報 第7667号に掲載



開室記念シンポジウム報告書

東日本大震災後の子ども支援 第1回シンポジウム報告書

## 平成24年度 「震災子ども支援室」活動報告

### ■ 概要

昨年度開室した震災子ども支援室は、活動の組織化に力を注いだ一年となりました。支援室に関するチラシ、ポスターを作成し、これを各市町村、学校関係等に配布したほか、新聞雑誌、テレビ、ラジオ等の報道を通じた周知も行いました。相談事業は、フリーダイヤルの電話相談を開始したことで、遠方からも当事者相談が届いています。こうした個別相談は他の事業や活動の土台であり、電話口の個々の声には丁寧な対応を続けています。東部児童相談所、宮城県里親会との共催で立ち上げた里親サロンは、気仙沼市、石巻市、東松島市ほかで定期開催に至りました。さらに、個別訪問相談、東部児童相談所石巻支所の里親担当者にむけたスーパーバイズ事業も定期的に行っています。あしなが育英会のスタッフにむけたストレスマネジメント事業は1年間を通して行われたほか、数々の支援団体が活動する際の実践的な相談にも対応しました。研修・講演活動は、地域の専門職の後方支援として要請に応じて行っています。テーマを掲げた講演会として、父子家庭の理解のために講演会を企画し、気仙沼、巨理の2カ所で開催しました。年に2回(3月と9月)のシンポジウムは、子どもにかかわる地域の専門職が多数集まる機会として定着してきています。

次年度は、本年度の活動を充実させる一方で、3回忌を迎える東北の“今”の姿を念頭におく、さらに感度の高い活動を進めていきたいと考えています。

### ■ スタッフ

- 室長：加藤 道代 (教育学研究科人間発達臨床科学講座 教授 臨床心理士)
- 相談員：平井 美弥 (臨床発達心理士)
- 相談員：押野 晶子 (看護師・保健師)
- 相談員：久保 玲子 (産業カウンセラー・在岩手)



平成23年3月20日 石巻市中瀬公園



平成24年3月20日 石巻市中瀬公園

# 1. 相談実績

## 1 当事者相談(表1参照)

電話相談は、支援室の業務時間が平日中なので子どもたちよりも、親や里親、支援者からの相談を受けることが多いです。宮城・岩手・福島の被災3県から電話がきています。相談を受ける子どもたちの様子は、いつもとは違う症状や行動があったり、一年間は頑張っていたけれど、2年目から学校に足が向かなくなっていたり、傍にいる大人も震災後の様々な環境の変化で疲れていて子どもの変化にどうかかわればよいか、自信を持ってなくなっているのが伺えます。同じ被災地でも場所による温度差を目の当たりにするのが辛い、納得がいかない、自分は被災地から転入してきたのだけれど、そのことを知ってほしい気持ちと知られたくない気持ちがある、なかなか被災地のことを理解してもらえず辛い等、孤立感や葛藤的な気持ちで揺れています。他にも家族や親せき関係がうまくいかなかったり、家族の力が弱まっているとのことがあげられます。

相談ケースは、親を亡くされたお子さんを引きとっている場合には家族形態が突然に変わってしまったことで、今までなかった人間関係が始まったことからくる戸惑いなどがあげられます。

ケースコーディネーションは、直接子ども達にかかわっていらっしゃる、市町村の職員の方等の相談ケースについて、適宜アドバイスを行っています。

## 2 専門家相談・支援者相談

- ① 東部児童相談所気仙沼支所里親担当
- ② 富谷町民生委員
- ③ あしなが育英会
- ④ 宮城県里親会
- ⑤ 東部児童相談所石巻支所里親担当
- ⑥ 南三陸町保健福祉課
- ⑦ NPO 法人 フューチャーキッズジャパン
- ⑧ 黒磯ロータリークラブ

## 3 ストレスマネジメント事業

あしなが育英会新人スタッフに対して、月1回ストレスマネジメントを行いました。(場所はあしなが育英会東北事務所)

平成24年 5/23	あしなが育英会ストレスマネジメント (グループワーク)	9/26	あしなが育英会ストレスマネジメント (グループワーク、筋膜ケア)
6/13	あしなが育英会ストレスマネジメント (グループワーク、筋膜ケア)	10/24	あしなが育英会ストレスマネジメント (グループワーク、筋膜ケア)
7/4	あしなが育英会ストレスマネジメント (グループワーク、筋膜ケア)	11/21	あしなが育英会ストレスマネジメント (コラージュ)
7/18	あしなが育英会ストレスマネジメント (筋膜ケア、自律訓練法)	12/19	あしなが育英会ストレスマネジメント (粘土)
8/22	あしなが育英会ストレスマネジメント (グループワーク、筋膜ケア)	平成25年 2/6	あしなが育英会ストレスマネジメント (グループワーク)

## 4 スーパーバイズ事業 東部児童相談所里親担当対象

平成24年 11/14	東部児童相談所里親担当 スーパーバイズ(石巻市)	平成24年 12/17	東部児童相談所里親担当 スーパーバイズ(石巻市)
-------------	-----------------------------	-------------	-----------------------------

表1：当事者相談・専門家相談・支援者相談・ストレスマネジメント・スーパーバイズ等相談実績表

(平成24年4月1日～平成25年3月末日現在)

	実数	延べ件数	総所要時間
電話相談	84	159	4166分
電話(その他・問合せ等)	26	32	105分
電話相談以外の相談(訪問・来所)	11	21	843分
ケースコーディネーション	5	9	130分
組織運営に関するアドバイス	6	8	300分
支援室内ケースカンファレンス	41	23	2400分
ストレスマネジメント	10	10	600分
スーパーバイズ	2	2	240分

# 2. 里親サロン

東部児童相談所、宮城県里親連合会との共催で行われました。養育里親として活動されていた方々もチューターとしてサロンに加わり、震災で新たに親族里親になられた方にむけた支援を行いました。

平成24年 5/16	里親サロン 本吉町(本吉町公民館)	11/27	里親サロン 東松島市(東松島市コミュニティセンター)
6/27	里親サロン打合せ(東部児童相談所)	平成25年 2/1	里親サロン 本吉町(本吉町公民館)
7/3	里親サロン 石巻市(東部児童相談所)	2/20	里親サロン 石巻市(石巻市中央公民館)
8/28	里親サロン 東松島市(東松島市コミュニティセンター)	3/14	里親サロン今年度の振り返り、 来年度について打合せ 仙台市(東北大学)
9/6	里親サロン 本吉町(本吉町公民館)		
10/31	里親サロン 石巻市(東部児童相談所)		

# 3. 震災子ども支援室主催による会議、シンポジウム、研修会など

## 1 シンポジウム 「第2回東日本震災後の子ども支援～診察室や保健室から見える子ども達～」

(平成24年9月15日(土)、東北大学文科系総合棟11階大会議室、参加者数73名)

東日本大震災から1年半を迎え、被災地現場で日常的に子ども支援を行ってきた、養護教諭、心理士、小児科医の3名を迎えて、身体面から見た子どもたちの様子を振り返り、周囲の大人に求められる今後の対応について議論しました。

- 報告1 一歩前進**  
伊藤香織氏 / 石巻市立門脇中学校養護教諭
- 報告2 福島における心理面の課題**  
渡部純夫氏 / 東北福祉大学教授
- 講演 小児科の診察室から～これまでの経過と今後の課題～**  
豊島喜美子氏 / 医療法人豊島医院(小児科医師)



## 2 講演会 「第3回東日本震災後の子ども支援 災害を経験した子どもたち～北海道南西沖地震から20年を迎える奥尻島を例に～」

(平成25年3月2日(土)、東北大学文科系総合棟11階大会議室、参加者数40名)

北海道南西沖地震から20年がたちます。震災当時奥尻島に暮らす中学生でいらした先生のご講話から、東北がこれから歩いていく道のりについて議論しました。

- 講師** 定池祐季氏  
北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター助教

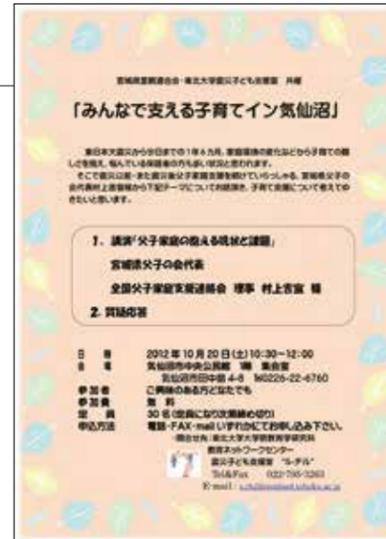


### 3 講演会 「みんなで支える子育てイン気仙沼」

(平成24年10月20日(土)、気仙沼市中央公民館1階集会室、参加者数16名)

震災後、環境の変化などから子育ての難しさを抱え、悩んでいる保護者の方も多し。そこで、父子家庭の抱える現状と課題について学ぶ機会としました。

**講話** 父子家庭の抱える現状と課題  
村上吉宣氏 / 宮城県父子の会代表、全国父子家庭支援連絡会理事

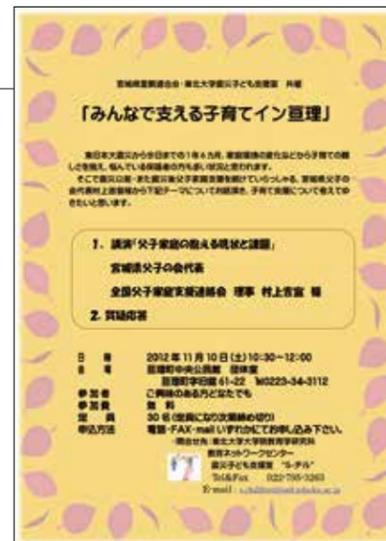


### 4 講演会 「みんなで支える子育てイン亶理」

(平成24年11月10日(土)、亶理町中央公民館団体室、参加者数15名)

震災後、環境の変化などから子育ての難しさを抱え、悩んでいる保護者の方も多し。そこで、父子家庭の抱える現状と課題について学ぶ機会としました。

**講話** 父子家庭の抱える現状と課題  
村上吉宣氏 / 宮城県父子の会代表、全国父子家庭支援連絡会理事



## 4. 研修講師の派遣

### 1 仙台市泉区子育て支援関係機関連絡会 「被災地に暮らしながら支援を行うために」

(平成24年2月13日:仙台:講師・加藤道代)  
児童センター・児童館・地区民児協8地区会長・主任児童委員・保育所・小学校など80名

### 2 宮城県黒川郡富谷町 「心の研修会～震災後1年を振り返って～」

(平成24年2月28日:富谷町:講師・加藤道代)  
富谷町健康推進員、民生児童委員90名

### 3 宮城県里親連合会総会 「里親サロンのチューターに求められること」

(平成24年5月17日:仙台:講師・平井美弥)

### 4 仙台市若林区民生委員、主任児童員 「被災地に暮らしながら支援を行うために～1年半がたって～」

(平成24年9月4日:仙台:講師・加藤道代)

### 5 宮城県気仙沼市保育関係者(保育所・幼稚園)保育士研修 「保育士の行う保護者支援」

(平成24年9月11日:気仙沼市:講師・加藤道代)

### 6 宮城県石巻市保育関係者(保育所・幼稚園)保育士研修 「保育士の行う保護者支援」

(平成24年11月14日:石巻市:講師・加藤道代)

### 7 仙台家庭裁判所 自庁研修会 「目にみえるものへの手当て、目にみえないものへの心遣い」

(平成24年12月11日:仙台市:講師・加藤道代)

### 8 東北大学復興アクションプラン100+ 教育学研究科主催/教育の視点からの震災復興支援—研修会 「震災子ども支援室(S-チル)のとりくみ」

(平成25年2月28日:仙台市:講師・加藤道代)

### 9 東北大学復興アクションプラン100+ 教育学研究科主催/教育の視点からの震災復興支援—研修会ワークショップ 「子どもたちの今、子どもたちのこれから」

(平成25年2月27日28日:仙台市:ワークショップ講師・加藤道代)

### 10 東北大学復興アクションプラン100+ 教育学研究科公開シンポジウム 教育という視点からの復興支援のあり方 「震災子ども支援室"S-チル"による"震災後"と"子ども支援"へのアプローチ」

(平成25年3月20日:仙台市:パネリスト・加藤道代)

## 5. 会議、情報交換会出席

- 1 平成24年3月10日  
子どものこころ講習会と情報交換会 (みやぎ心のケアセンター、仙台子どものこころ研究会共催:仙台市) 出席:加藤
- 2 平成24年6月14日  
第1回岩手県被災児童支援団体交流会 (岩手県保健福祉課主催:盛岡市) 出席:平井・押野・久保
- 3 平成24年8月21日  
第2回石巻・登米地域子どもの心のケア対策連絡会議 (東部児童相談所主催:石巻市) 出席:加藤・平井・押野
- 4 平成24年10月3日  
石巻市校長会 出席:平井
- 5 平成24年10月17日  
第1回南三陸町子ども支援連絡調整会議 (南三陸町保健福祉課主催:南三陸町) 出席:加藤・平井・押野
- 6 平成25年1月30日  
第2回南三陸町子ども支援連絡調整会議 (南三陸町保健福祉課主催:南三陸町) 出席:加藤・平井

## 6. 関連自治体・団体への訪問

日時	行先
平成24年 4/13	仙台的のちの電話事務局
4/26	石巻市福祉部健康推進課
5/10	東部児童相談所気仙沼支所
5/31	石巻市市民相談センター
7/12	県南里親会里親サロン(柴田町)
7/24	(株)コンセプト
8/17	米沢市社会福祉協議会 避難者支援センターおいで、 みやぎ心のケアセンター
8/20	南三陸町保健福祉課健康推進係、 南三陸町教育委員会
8/21	石巻・登米地域子どもの心のケア対策連絡会議
10/3	石巻市校長会

日時	行先
10/17	第1回南三陸町子ども支援連絡調整会議
11/15	奥尻島津波館、奥尻島保健福祉センター、 奥尻町役場
11/16	奥尻町教育委員会事務局、 北海道札幌”うけいれ隊”
11/17	元奥尻稲穂小学校校長
12/6	石巻専修大学
平成25年 2/22	ハート and アート空間BE-I
2/25	NPO法人子どもグリーンサポートステーション
3/11	あしなが育英会 石巻レインボーハウス
3/21	元奥尻稲穂小学校校長 北海道札幌”うけいれ隊”
3/23	みちのく未来基金第2期生のつどい

## 7. 講演会、研修会等出席

- 1 平成24年3月24日  
子どもと家庭を支えるネットワークと連携をめざして (子どもの村SOS:仙台市) 出席:平井・押野
- 2 平成24年4月27日  
大災害で被災した子どもを救うプレイメーカープロジェクト (児童精神科医本間博彰氏、児童精神科医八木淳子氏) (宮城県子ども総合センター主催:東京都) 出席:平井・押野
- 3 平成24年4月28・29日  
親をなくした子どもたちの心のケアと成長をサポートするファシリテータ養成講座 (あしなが育英会主催:石巻市) 出席:平井
- 4 平成24年5月27日  
講演:困難を生きる心の力とその援助 (ヴァルデマール・キッペス氏) (NPO臨床パストラル教育研究センター主催:仙台市) 出席:平井・押野
- 5 平成24年6月1日  
講演:パペットを使ったココロのケアとショー (マスクット・ショシャット、イスラエルシュナイダー小児医療センター-教育部長) (東北大学医学部主催:仙台市) 出席:平井・押野
- 6 平成24年7月22日  
講演:愛着の絆と里親養育 (国立成育医療研究センター奥山真紀子氏) (子どもの村SOS主催:仙台市) 出席:平井・押野
- 7 平成24年8月18日  
公開講座:「被災地からの報告—地域再生のために保健師として大切にしたいこと—」 (渋谷美智子氏、岩崎桂氏、工藤初恵氏、只野里子氏、三浦ひとみ氏、平山史子氏(市町村保健師)) (宮城県・宮城県看護協会・全国保健師長会宮城県支部主催:仙台市) 出席:押野
- 8 平成24年10月6日  
講演:震災とこころのケア研修会 (宮城学院女子大学 足立智昭教授) (宮城学院女子大学主催:仙台市) 出席:平井・押野
- 9 平成24年10月8日  
講演:震災とこころのケア研修会 (京都大学こころの未来研究センター 河合俊雄氏、筑波大学大学院教授 岸良範氏、京都大学 田中康裕氏) (日本箱庭療法学会日本ユング派分析協会主催:福島市) 出席:平井
- 10 平成24年10月27日  
第7回子どもの夢ネットワーク研修会 “支援のつながりを培う” (子どもと家族の相談室 川口正義社会福祉士) (子どもの夢ネットワーク主催:仙台市) 出席:平井
- 11 平成24年10月28日  
心の復興と交流分析 (宮本静子教諭、江花昭一横浜労災病院心療内科医師) (日本交流分析協会主催:仙台市) 出席:平井
- 12 平成24年10月28日  
福島県会津地方における震災後の子供への支援の現状と課題 (寺田隆教諭) (日本臨床発達心理士会東北支部主催:仙台市) 出席:平井
- 13 平成24年12月20日  
「震災により孤児や遺児となった子どもたちの支援と、彼らをケアする里親さんへの支援を考える研修会」聴講 出席:平井
- 14 平成24年12月22日  
「東日本大震災心理支援報告研修会」聴講 出席:加藤教授
- 15 平成24年12月22日  
公衆衛生の担い手としての保健師活動～災害支援活動を通して保健師に伝えたいもの～ 出席:押野

## 8. 支援室来室対応

平成24年 4/3	全国父子家庭支援連絡会 宮城県父子の会	7/17	全国父子家庭支援連絡会 宮城県父子の会
4/11	グリーンケア研究会	10/4	あしなが育英会スタッフ
4/19	子どもの村福岡SOS	10/5	北海道大学大学院理学研究院地震火山研究観測センター 定池祐季助教
4/20	あしなが育英会新人スタッフ	10/12	宮城県里親連合会
4/25	宮城県里親連合会	10/23	国際紙パルプ商事株式会社
5/2	宮城教育大学	10/24	NPO法人 フューチャーキッズジャパン
5/15	若林区中央市民センター	10/30	黒磯ロータリークラブ
6/15	全国父子家庭支援連絡会 宮城県父子の会	平成25年 2/5	みちのく未来基金
6/19	臨床心理士Kさん	2/25	北海道大学大学院理学研究院地震火山研究観測センター 定池祐季助教
6/26	グリーンケア研究会		
7/17	グリーンケア研究会		

## 9. 報道関係

平成24年 4/11	NHKニュース「震災子ども支援室:無料電話相談の設置」(朝…東北全域、午後…全国)
5/8	少年写真新聞社 心の健康ニュース震災孤児・遺児支援の立場から(前)
6/8	少年写真新聞社 心の健康ニュース震災孤児・遺児支援の立場から(後)
7/16	NHKラジオ第1放送「ラジオあさいちばん」～復興へのメッセージ～(午前5時17分頃から7分前後…全国)
8/24	～現在継続中 あすへ 3.11 掲示板
10/19	「ひとりじゃないよ」と伝えたい朝日小学生新聞
平成25年 2/11	公開復興サポート明日へ in東北大学(於:川内北キャンパス)

## 10. 広報・出版物・報告書

- 1 「震災子ども支援室」広報ポスター、チラシ、カードの作成、自治体と関連団体、学校に配布。FREEPAPER(ままばれ宮城版)に掲載。



- 2 東北大学Annual Review 2012 p11「震災子ども支援室の立ち上げ:培った地域臨床のノウハウで支援」(Tohoku University Annual Review 2012 p11 "Establishment of the Support Office for Children in the Aftermath of the 2011 Japan Earthquake; Support with developed community clinical practice know how")

- 3 東北大学 復興アクション「日本復興の先導」を目指して 第2版に掲載。

- 4 国際紙パルプ商事株式会社 CSRレポート2012 に掲載。

- 5 シンポジウム「第2回東日本震災後の子ども支援～診察室や保健室から見える子ども達～」(平成24年9月15日(土)実施)報告書作成と配布

- 6 講演会「第3回東日本震災後の子ども支援 災害を経験した子どもたち～北海道南西沖地震から20年を迎える奥尻島を例に～」(平成25年3月2日(土)実施)報告書作成中

- 7 フェイスブック作成。ホームページとリンク。  
<http://www.sed.tohoku.ac.jp/~s-children/>

- 8 研修会資料の電子ジャーナル化(東北大学中央図書館)

- 9 2月11日 公開復興サポート明日へ in東北大学 (於:片平北キャンパス)

- 10 文教ニュース 第2209号に掲載

- 11 文教速報 第7783号に掲載



東日本大震災後の子ども支援 第2回 報告書



東日本大震災後の子ども支援 第3回 報告書

## 11. その他の活動

- 1 「里親サロン実施・運営上の注意点について」作成

- 3 「里親サロン開催マニュアル」作成

- 2 「相談電話を受ける際のマニュアル」作成

- 4 相談記録管理システム作成